

和寒町地域農業再生協議会（北海道和寒町）

組織の概要

- 地域農家戸数 166戸
- 稲作中心型農業、水稲・畑作・露地野菜を中心とした土地利用型農業、メロン、トマト、花卉など施設を導入した集約型農業など多様な経営形態。



生産概要

- 【作付面積】水稲：750ha、大豆：694ha、小麦：483ha、カボチャ：718ha（R6年）
- 4作の輪作を推進（麦類→てん菜→カボチャ・キャベツ→豆類等）一部ブロックローテーション有り
- 「日本のトップクラスを誇るカボチャ」や、商標登録した「和寒越冬キャベツ」を中心にブランド化を図ってきた一方で、高齢化や労働力不足、規模拡大に伴い野菜の生産が減少しており、大豆の作付割合が徐々に拡大。（H24年352ha→R4年630ha）

取組のポイント

<湿害対策による生育障害の予防>

- 当町の多くは泥炭地土や灰色低地土となっているため、上川農業改良普及センター土別支所と連携し、サブソイラーを用いた適正な速度・深さ・土壤水分量での心土破碎を行い、根が深く広く張るよう適切な排水対策を推進。

<土壌診断による土づくり>

- 土壌診断結果に基づき、土壌区別に適切な窒素量を理解し根粒菌の活性低下や倒伏を防ぐため、根粒数を確認して行う適時追肥を推進。

<ドローンを活用した適期防除>

- 経営面積拡大に対応する防除等作業の効率化や毎年のように発生する大雨被害後の速やかな防除等を推進。



（大豆栽培講習会の実施）

取組成果

<地域全体で安定した単収の確保>

- サブソイラーの適切な実施による透排水性の改善、土壌診断結果に基づく圃場づくり、ドローンを活用した適期防除や降雨後の早急な防除の実施により、大雨や高温でもR4単収（現状値）からR6単収にかけて、取組実施者の単収は約22%増加

[実施者単収] 247.0kg/10a（現状値：R4）
→300.3kg/10a（R6）
[北海道単収] 252.0kg/10a（現状値：R4）
→283.0kg/10a（R6）

【大豆の北海道単収と取組実施者の単収比較】

